

式辞

桜舞うこの春、本格的な春の到来を感じる今日の良き日に、PTA会長 中川内昇様、同窓会長 徳永壮太郎様をはじめ、役員の皆様のご臨席を賜り、ここに、令和七年度佐賀県立武雄高等学校、第十九回入学式を挙行できますことを、心から感謝申し上げます。

ただ今、二四〇名の新入生の入学を許可いたしました。新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

本校では、教職員一同、皆さんの入学を心待ちにしていました。皆さんも今日のこの日を、少しの不安と、大きな期待で胸を膨らませながら待っていたことでしょう。

本校は「質実剛健・報恩感謝の誠を尽くす」を校是とし、今年、創立百十八年目を迎えた歴史と伝統ある学校です。外見を着飾るのではなく、内面の充実を尊しとする校風を受け継ぎ、毅然・凜然とした品格ある人間となることを期待しています。

本校には、教育愛あふれる先生方や、高い志をもって仲間とともに文武に励む先輩たちがいて、学習や部活動、校外での活動など、自分が望む分野に精一杯打ち込むことができる、最高の環境を整えています。

そして、この学校には中学時代よりも、もっと多様な仲間たちがいます。人生の喜びや学びの多くは、自分とは異なるものを持つ友人と接することからもたらされるものです。今日からは皆さん一人一人が武雄高校生です。ぜひ多くの人と一緒に活動する場面を楽しんでほしいと思います。

本校の学校教育目標は、「高い志と未来を切り拓く力を持ち、多様な人々と協働しながら、持続可能な社会の実現を目指して、地域や国際社会が抱える課題解決に向けて主体的に行動できる人間性豊かな人材を育成する。」であります。

皆さんには、この武雄高校で学んで、「未来の開拓者」となることが求められています。そうなるためには、どうすればいいのでしょうか。

皆さんが高校で過ごした後に出ていく社会は、折しも、不確実性の高いこの時代です、まさに混迷を極めています。次にどのような事態が生じるか予測ができない、その生じた事態に即座に、どう対応するか判断するための知恵と力が求められる、そのような社会です。たった一つの正解というものがない、そもそも何が正解なのかが分からない、そのような社会の中で、私たちは、自分のやり方で、自分で判断し、自分で進む道を選んでいかななくてはな

りません。

多様性に満ちた社会の中で、他者とかかわることによって、自分の中の多様性に気づき、たくましく生きていく必要があります。

そのために、本校では『探究』という姿勢を大切にしています。『探究』とは、教科の学習でも部活動でも、生徒会活動や校外活動など、なんでもいい、自分の興味・関心がある分野、一番自分らしいと思える活動に没頭することです。皆さんには高校時代に、いろいろな経験をしてそれを探してほしいと思っています。探し求め、そしてそれを究める、『探究』活動を繰り返しながら、将来にわたって自身の土台となる、自分自身のものの見方、感じ方、考え方を身につけてほしいと思っています。

そうすることで、皆さんは、この武雄高校での学びを通して、自分らしい社会への参加のしかた、これからの社会をつくっていく力を身につけていくことができるでしょう。

最後になりましたが、ご臨席の保護者の皆様、ご家族の皆様、本日のご入学、誠におめでとうございます。お喜びもひとしおかと存じます。私ども教職員一同は、新入学の皆さんの教育に全力で取り組んでまいります。教育の現場では、学校だけでは解決できない課題も生じ、ご家庭との連携が不可欠となります。保護者の皆様、ご家族の皆様には、本校教育への益々のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます次第です。

新入生の皆さん、今日から佐賀県立武雄高等学校での新しい一年が始まります。皆さんにとってこれからの学校生活が、楽しく、また、充実した日々となるよう祈念して式辞といたします。

令和七年 四月 九日

佐賀県立武雄高等学校
校長 岡 祐一郎